



女神の為の

ルネサンス





目次

第 1 章・事前準備

- 1.1 トレイラー
- 1.2 はじめに
- 1.3 シナリオの流れと概要
- 1.4 シナリオ背景
- 1.5 秘匿ハンドアウト
- 1.6 NPC
- 1.7 時代背景補填の為のシナリオ資料
- 1.8 キャラクター作成レギュレーション
- 1.9 シナリオ中の記号の説明

第 2 章・本編

- 2.0 導入
 - 2.1 サンタ・マリア・デル・フィオーレ教会
 - 2.2 アカデミア・プラトニカ
 - 2.3 ヴェッキオ宮殿
 - 2.4 シニョリア広場
 - 2.5 サン・マルコ修道院
- 



2.6 カッチャトーレ

2.7 カステッロ邸

2.8 キプロス島

3 章・エンディング


3.1 エンディング

3.2 個人報酬

3.3 その後

4 章・FAQ&A

5 章・テストプレイ協力者の皆様



第 1 章・事前準備

1.1 トレイター

舞台：1492 年 2/21-2/22

フイルンツェ〜キプロス

時間：4-5 時間

人数：4 人

推奨：目星、芸術(絵画)、自然/科学(天文学)、

ラテン語、交渉技能、戦闘技能

傾向：シテイクラシック&秘匿 HO

備考：探索者創造の為の特殊レギュレーション

1.2 はじめに

本シナリオは、『クトゥルフ神話 TRPG』第 7 版に対応している。

本シナリオの舞台は 15 世紀末のイタリア・フイルンツェであり、キーパー・プレイヤーの双方に親しみのない舞台であるかもしれない。本シナリオは、歴史的知識を持たない KP・PL に対しても十全に機能するように記述されていると共に、プレイの雰囲気醸成する為に必要な程度の背景知識を、コラムとして本文内に記している。これらのコラムを読んでおくことは、セッションの質を向上させることに繋がるだろう。

本シナリオは歴史的な時代を舞台に選んでいるが、必ずしも史実に忠実でなければならないわけではない。TRPG の根源的な目的である、参加者全員が楽しめる空間を醸成する為、KP は必要に応じて本シナリオを適切に改変することを推奨される。その際、KP への改変やアドリブの助けとなるよう、シナリオ内には様々な KP 情報や時代背景を示している。

また、本シナリオは秘匿 HO 制を採用している。クトゥルフ神話 TRPG に於いて秘匿シナリオを導入する理由、またその際の KP の留意点は、前作『レイクス・ナムの猿夢』にて、以下のように述べた通りである。尚、KP の裁量と改変によつては、本シナリオを公開 HO 制、または単に HO の存在しないシナリオとして楽しむことも可能である。

“秘匿ハンドアウト制については賛否両論があるだろうが、シナリオ制作者は、秘匿 HO が必然的な PvP を意図していない限り、クラシカルなシテシナリオと好相性であると考えている。

我々は、隣人の何を知っているだろう。友人の過去を何処まで知っているだろう。路上ですれ違う人々の中に、殺人者が混じっていないと、どうして言い切ることが出来るだろう。クトゥルフ神話の物語に於いて、登場人物は日常を一步踏み込んだ先にある闇を除くことで、自身とその属する世界の連結性を揺るがす。ならば、隣人の裏の顔を覗く行為は、最も近い世界に「一步踏み込む」ことに他ならないのではないだろうか。

しかし、忘れるべきでないのは、我々は過去も知らぬ他人を信頼し、協力関係を築いて生活しているということだ。相互信頼の戦略によって保障される協力関係、本シナリオは、『クトゥルフの呼び声』に記されている「本ゲームは協力型ゲームである」の「協力」を、そのように解釈して作製されている。

”（『レイクス・ナムの猿夢』）

“一つだけ忘れてはならないことがあるとすれば、これは秘匿処理を前提としたシナリオであるということだ。KP は通常のシナリオ以上に、「すべての PL を平等に取り扱うこと」「あらゆる処理及を徹底して丁寧に描写し、PL が一人たりとも”取り残された”と感ぜることがないようにすること」を心掛なければなりません。そうでなければ、本シナリオは PL にとって不快なものにはならないでしょう。”（『レイクス・ナムの猿夢』）

1.3 シナリオの流れと概要

本シナリオに於いて、探索者は、ヴァチカンのエクソシストとフィレンツェの聖職者に別れ、フィレンツェ貴族・メディチ家の巡らせる陰謀を暴くことになる。

本シナリオの基本的なプロットは、ロレンツォの指示によってシュブ=ニグラス召喚を図るポポラーノの計画に気付き、その鍵となるポッティチエリの「ヴィーナスの誕生」に描かれた謎を解くことで、それを阻むというものである。

本シナリオ内には、「メディチ家が邪神を復活させようとしている」ことを示す直接的な証拠は存在しない。権力者が、数年かけて準備した計画を実行に移そうとしているのだから、徹底的に隠蔽されているのだ。その代わり、ゲーム的な配慮として、各所に状況証拠的な手がかりが張り巡らされており、それらを揃えることで計画の大枠を得ることが出来るように作られている。

鍵となる証拠は「ヴィーナスの誕生」であり、ポッティチエリの予知夢、解釈書や禁書、サヴォナローラの予知夢に基づいてそれを読み解くことで、メディチ家の計画の全容を掴むことが出来る。従って、HO を問わず、アカデミア・プラトニカでポッティチエリの夢についての話を聞くことが物語の大きな目標を定めることに繋がる為、KP は早期に誘導すると良い。また、カステッロ邸の探索は、本シナリオの根幹部分となっており、こちらも欠かすことはできないだろう。

こういった KP の進行を助けるためのギミックとして、スペイン貴族の少女クレツィア・ボルジアを用意してある。KP は、PL がスムーズに探索を行えるように、彼女を用いて誘導すると良いだろう。

また、一部の聡明な探索者は、メディチ家の計画の背景を知り、自身の信仰する神が邪神アザトースであることを知るかもしれない。その場合、探索者は自らの信仰と使命に対し、どのように向き合うかを問われることになり、物語はより深みを増すだろう。

尚、シナリオ作者の想定する「正規ルート」(厳密にはTRPGにそういったものは存在しないのだが)は、以下である。

①アカデミア・プラトニカ及びカステッロ邸で「ヴィーナスの誕生」が何らかの予知を反映していると掴む。

↓

②シティ探索によって、「ヴィーナスの誕生」を読み解いたメディチ家が古代の神々を蘇らせるために動いていることを推察し、修道院でカッチャトレへの連絡を得る。

↓

③カッチャトレの協力を得てカステッロ邸に潜入、隠し部屋を捜査。「ヴィーナスの誕生」を解釈しエアの街へ飛ぶ。

↓

④森に入り、カブラを倒して儀式を阻止する。

↓

⑤船でフィレンツェへ帰り、エンディング。

さて、改めて言う事でもないが、KPはセッション中、本シナリオを理に適った範囲で自由に改変することが認められており、またそうする必要に迫られるであろう。

本シナリオは、探索者の選択の自由を保障する為に、KPに多く裁量の余地を残し、柔軟な改変とアドリブを前提として書かれている為である。勿論、こうした裁定に必要な情報は一定程度シナリオから推測できるように作成されており、柔軟なキーパーリングに資する為のKP情報も随所に書き込まれている。

しかし、最終的にセッションに於けるすべてを決定するのは、KPたる貴方である。シナリオは全体の地図であり、探索者の旅路がいかなる景色となるかは、PLと調整しながらも、最終的には導き手であるKPが決定することである。極論、本シナリオを選択式ノベルゲームのように展開しても、手を加えて秘匿HO制としても、オーソドックスなクラシックシティシナリオとして遊んでも、それらはKPの自由である。

1.4 シナリオ背景

中近世ヨーロッパに於いて絶対的な権威を誇ったローマ・カトリック教会。その正体は、邪神アザトースを崇拝するカルトである。あまりに巨大化し、あまりに複雑化した結果、中心に居るごく少数の高位聖職者を除いて忘れられてしまった過去であるが、それは連続と受け継がれてきている。

フィレンツェの貴族ロレンツォ・デ・メディチは、ルネサンス芸術に触れる中でキリスト教の蒙昧さを強く懸念すると同時に、その信仰の対象が邪神アザトースであることを知り、キリスト教を破壊する為には古代ギリシャ・ローマ的な存在による世界の再生(それは必然的に破壊の後のみ生起するものである)を必要と考えるようになる。彼は、自らは世俗権力としてルネサンス芸術を保護するとともに、その中から外なる神や旧支配者に関係するものを拾い上げ、カトリックに対して外部からの攻撃を試みようとしている。同時に、息子ジョヴァンニを教皇レオ10世として即位させ、敢えて腐敗を進めることで教皇庁の権威を失墜させようとも企図している他、フランス王によるイタリア侵略を誘引、改革派修道会への経済的援助を通じ、カトリックに対する政治的な包囲を構築しようと目論んでいる。

彼の試みのうち、前者は本シナリオ内で探索者の手によって失敗するが、後者の手法は、宗教改革やイタリア戦争として成功することとなり、宗教改革による教会分裂によって、ローマ=カトリック教会が進めていた、ハルウエ降臨と「神の千年王国」の現世への到来(新プラトン=グノーシス主義者であるロレンツォによれば、デミウルゴス=無知にして全能のアザトースの顕現)を防ぐことに成功するのである。

こういったメディチ家の計画は教皇庁の懸念材料であり、HO1・HO2はこれを阻止する為、内情を聞かされずに教皇庁から送り込まれることとなる。

1.5 秘匿ハンドアウト

HO1・HO2 貴方は、ローマ教皇

直属の聖職者である。

貴方は、ヴァチカンに所属する祓魔師(エクソシスト)である。教皇の勅命を奉じてはヨーロッパ各地を巡り、悪魔と戦うのが貴方の役目だ。貴方は、父なる教皇の導きに従い、悪魔に支配された者や人狼を狩り、魔女や異端者の邪なる儀式を防ぎ、陰から世界を守るキリストの剣である。

ある日、貴方は教皇の下に呼び出され、フィレンツェ貴族であるポッラーノ・デ・メディチの邸宅を調査するように、との勅命を受ける。彼は、4年前から古代ローマの神ヴィーナスに関する儀式や伝承の類を積極的に収集するようになり、教皇庁の警戒対象とされていた。

密偵の報告によれば、長い間目立った行動は見られなかったが、1ヶ月前から自宅に籠り切りになり、大貴族のような身分の訪問者を除いては面会を謝絶するようになっている。また、傭兵募集の貼紙を出し、何人もの兵士を館に招いているが、その一人も館から出てきたものはいないという。

このような急激な行動の変化を受け、教皇庁はポッラーノの身辺調査を決意、調査員として貴方に捜査の命令が下った。

貴方は、教皇庁の関与が発覚しないようしながら、ポッラーノの邸宅であるカステッロ邸を調査し、陰謀があれば未然に阻まねばならない。

貴方は、祓魔師として、以下の呪文を習得している。

呪文「浄化(Purify)」

ヴァチカンの祓魔師が習得する、最も基本的で最も効果的な呪文。呪文の詠唱者は、対象に接触した状態でなければならない。複数の人物が協力してこの呪文を詠唱する場合、彼らの身体の一部が互いに接触している必要がある。

この呪文を唱える場合、任意のMPを消費する。消費したMPに5%を掛けたものが、この呪文の成功率となる。この呪文が成功した場合、呪文の詠唱者は、(1d消費MP)分の正気度ポイントを消失する。

この呪文を用いることで、他の神格によって清められた祭壇や、魔力を込められた武器、作られたアーティファクトを清め、無力化することが出来る。この呪文の本質は、彼らが信ずる神格の力を用いて、他の神格の力を「清め直す」ことなのである。

貴方の職業技能は、近接戦闘(格闘)、精神分析、追跡、ラテン語、オカルト、自然、隠密。母国語はイタリア語(任意の方言)である。職業技能ポイントは $EDU \times 2 + DEX \times 2$ または $EDU \times 2 + STR \times 2$ 、信用は 9-30%。

HO3・HO4 貴方は、フイレツツエ

活動する聖職者である。

貴方は、サンタ・マリア・デル・フィオーレ教会に属する修道士または修道女である。父なる神の教えを広める為、日々教会で奉仕するのが貴方の役目だ。貴方は、民衆を悪魔の誘惑から守り、導き、審判の日まで正しき信仰を奉じて歩みを止めぬ、キリストの盾である。

先日、教会に、ローマ教皇庁から一通の手紙が届いた。この度、任務を帯びた聖職者がフイレツツエに派遣されてくる為、教会から彼らの案内を出すようにとのことであった。貴方は司教によって、この案内人に任命される。フイレツツエ滞在中における彼らの案内と安全の確保は、貴方達に委ねられている。

もう 10 日もすれば、季節は春になり、フイレツツエには花が咲き乱れるだろう。そのような時期だというのに、教会は最近、信者への説法に忙しい。数年前から活動するようになった、サン・マルコ修道院の説教師、ジローラモ・サヴォナローラの所為である。

サヴォナローラは、数か月前から、ローマ教皇庁やフイレツツエの支配者・メディチ家を鋭く批判しているのだ。メディチ家が悪魔と取引し、古代の神を蘇らせようとしている、という彼の発言は、多くの市民には狂人の戯言としか思われていないが、貧困層を中心に不気味な人気を集め、彼に協力する「カッチャトレ」と呼ばれる集団すら存在しているようだ。

また、現在教会には、スペインの大貴族・ボルジア家の令嬢であるルクレッツィア・ボルジアが滞在している。今年 12 歳になるこの好奇心旺盛な少女は、ピサに留学中の兄に会いに行った帰り、フイレツツエ観光を楽しんでいるらしい。教会のことを気に行ったようで、毎日のように聖職者や下働きの者を捕まえては、フイレツツエ案内をせがんでいる。最近の興味はもつぱら絵画鑑賞のようで、フイレツツエの貴族、ポッラーノ・デ・メディチの屋敷にある『ヴィーナスの誕生』に興味を抱いているらしい。

探索者の一人は、トルコの南にある、キプロス島の出身である必要がある。この場合、母国語はギリシャ語となる。

先日、故郷から手紙が届き、キプロスでは一ヶ月ほど前から、夜中に武装した男たちが民家に押し入り、男女構わず誘拐していく事件が発生しているという。被害者はもう 30 人ほどに登っているらしい。彼らはフイレツツエなまりのイタリア語を話しており、被害は島全域に及んでいるとのことである。危険である為、騒ぎが収まるまではキプロスに帰ってこないように、と手紙には書かれていた。

貴方の職業技能は、図書館、歴史、医学、科学(天文学)、法律、音楽、ラテン語。母国語はイタリア語(任意の方言)である。職業技能ポイントは EDU×4、信用は 30-80%。

KP 用資料「エクソリスト」

エクソリストはフィクション上の存在ではなく、カトリック教会に於いて、1972 年まで公的に設置されていた役職である。

彼らは、歴史的には「悪魔祓い」と称される一連の儀式、精神疾患へのショック療法、洗礼式の補助を任としていた。

本シナリオにおいては、クトゥルフ神話の怪異が実在する世界観であることを踏まえ、彼らエクソリストが現実以上に大きな権限を持っていると設定して HO を作成している。

1.6 NPC

ロレンツォ・デ・メディチ(43)¹

<https://iachara.com/char/16259/view>

フィレンツェの大貴族、支配者。ルネサンスの擁護者として高名な人物で、イタリア国際政治のフィクサーでもある。古典芸術の復興を通じ、腐敗した教会政治に疑問を有するようになった彼は、やがて現在のカトリック信仰に疑問を抱くようになる。今や異端・迷信とされている古代の神々の時代には、人々はかくも自由で、豊かなものであつたではないか。翻つて今や、神の時代に、人々が混迷を生きているのは一体何故なのか。来世ではなく、今を生きる我々に恵みが与えられぬならば、今の我々はいつた何なのだろうか。

彼はやがて、旧き神々の時代を理想視するようになり、自らの主催するサロン「アカデミア・プラトニカ」を、古代の神々を復活させるための秘密組織へと変えていった。

彼は強力な魔術師であり、アクティブな敵性 NPC として使用することは、ゲームとしてのバランスを大きく崩すことになる。その為、彼はシナリオ内で積極的に探索者を攻撃しないようにすべきである。彼は支配者であつて戦士ではない。探索者が自身の計画に対する明確な障害とならない限り、戦闘を避け穏便な計画の成就を優先するだろう。

既知の呪文：ラテン語版『ネクロノミコン』・ラテン語版『エイボンの書』・ラテン語版『クタート・アクアデインゲン』に記載されているすべての呪文、「記憶を曇らせる」

所有するアーティファクト：紅水晶の指輪(MP20 点の込められた「古のものの水晶」)。

¹<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%83%84%E3%82%A9%E3%83%BB%E3%83%87%E3%83%BB%E3%83%A1%E3%83%87%E3%82%A3%E3%83%81>

ポポラーノ・デ・メディチ(29)

(ロレンツォ・ディ・ピエルフランチェスコ・デ・メディチ²

ロレンツォの従弟で、「アカデミア・プラトニカ」の一員。ヴィーナス復活計画の責任者。

別荘であるカステッロ邸宅に「ヴィーナスの誕生」を保管。ロレンツォの指示を受け、腹心のカブラ・デ・ネーロをキプロスに派遣してリュブ・ニグラス復活の儀式を行おうとしている。彼は常に屋敷に滞在しているが、身の危険を感じた場合、「門」によってヴェッキオ宮殿へと脱出するだろう。

(※史実では1503年没である為、シナリオ上では彼を殺すことは想定していない。KPが歴史的正確性に頓着しないのであれば、PLのカタルシスの為に、黒幕である彼をこのシナリオで殺すことに決めても構わない)

既知の呪文：「門の創造」

カブラ・デ・ネーロ(28)

<https://iachara.com/char/16267/view>

ポポラーノ・デ・メディチ配下の傭兵隊長。数年前からポポラーノに雇用され、今や彼の腹心とも呼べる存在。剣の名人で、装甲3点分の漆黒の鎧に身を包んでいる。冷酷で容赦のない人物。

孤児としてある修道院で大切に育てられていたが、盗賊の襲撃によって、親同然に慕っていた司祭と修道女を惨殺される。その後、戦火の中を物乞いや男娼として生き抜き、13歳から剣を取って戦場に立つ。幸か不幸か、剣の才能のあった彼は、それか

ら15年を生き延びてきた。彼はすでに自らの人生に絶望しており、死に場所を求めている。破滅主義者である彼は、ポポラーノの計画に賛同しており、探索者の説得に心を動かされることは無いだろう。

「カブラ・デ・ネーロ」は、イタリア語で「黒山羊」の意。

サンドロ・ボッティチエリ(47)³

イタリアにおけるルネサンスの立役者、偉大な画家。

「アカデミア・プラトニカ」の一員。彼は夢による未来視の能力者であり、それを絵画に描くことで、ロレンツォに知らず知らずのうちに協力していた。

本作のキーとなる「ヴィーナスの誕生」は、リュブ・ニグラスの招来に最適な日を夢で予知し、9年前に描いた作品である。彼はそれをロレンツォに献上し、4年前、ロレンツォはそれをポポラーノに与えてヴィーナス復活の計画を始動させた。

ジローラモ・サヴォナローラ(40)⁴

フィレンツェの狂人、人によっては聖者。初期の宗教改革者。教皇庁の腐敗とメディチ家の政治を強く批判し、貧困層を中心に支持を得ている。

彼もまた予知の能力者であり、何者かからの「神託」を受けている。ロレンツォがキリスト教会に対して何か恐ろしいことを為そうとしていると気付いているが、立証する手段もなく、警鐘を鳴らす程度に留まっている。

² https://en.wikipedia.org/wiki/Lorenzo_di_Pierfrancesco_de%27_Medici

³ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%AD%E3%83%BB%E3%83%9C%E3%83%83%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%81%E3%82%A7%E3%83%83%E3%83%AA>

⁴ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%AD%E3%83%A9%E3%83%A2%E3%83%BB%E3%82%B5%E3%83%B4%E3%82%A9%E3%83%8A%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%A9>

ルクレツィア・ボルジア(12)⁵

スペインの貴族・ボルジア家の令嬢。兄の留学先であるピサへの訪問の帰り、フィレンツェに滞在している。年齢の割には聡明で利発、好奇心旺盛で珍しいものが好き。シナリオ内に於ける彼女の役割は、探査者の誘導とほんわか RP。

ジョット・タツ(24)

反メディチ家勢力「カッチャトレ」の中心人物。「カッチャトレ」はイタリア語で「狩人」の意。

嘗てポッティチェリの徒弟として働いていたが、4年前、「ヴィーナスの誕生」をポポラーノ邸へ搬入する際、旧き神の復活に関する計画をロレンツォとポポラーノが交わしているのを耳にしてしまう。ジョットはアカデミアの地下書庫で絵画の解釈を知り、ラファエラら仲間3名と共に絵画を読み解こうとするが、屋敷に侵入した所を捕捉されてしまう。仲間2名はカブラに殺され、ジョットはロレンツォの「記憶を曇らせる」によって、絵画の解釈に関する記憶を消されてしまった。以降、彼はサヴォナローラを影から支援しつつ、メディチ家打倒の為に秘かに活動している。

ラファエラ・ルカーノ(22)

サン・マルコ修道院の修道女。雑務の苦手なサヴォナローラを補佐し、サン・マルコ修道院の実質的な経営を担う。嘗てジョットと共にメディチ家の闇を暴こうとしたが、仲間を殺され、ジョットを逃がす為に囚われてポポラーノに捕縛される。その後、彼の配下の傭兵による拷問と乱暴を受けたが隙を見て脱走、以降はサヴォナローラに匿われながら「カッチャトレ」を支援する。受けた拷問により一部の記憶を失っている。

傭兵

<https://iachara.com/char/16275/view>

ポポラーノの屋敷に詰めている傭兵やシニョーリア広場で雇える傭兵などの一般的なステータス。

グリとグラ(26) 傭兵と同じステータス

フィレンツェの傭兵兄弟。裕福な農家の出身であったが、5男と6男であった為に耕作地を分与されず、食費扶持を求めて傭兵となった。幸か不幸か、戦闘の技量はそれなりにある。

黒山羊傭兵

<https://iachara.com/char/16273/view>

カブラ直属の恐れを知らぬ傭兵。厳格な規律と恐怖によってカブラに従う。

⁵<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AB%E3%82%AF%E3%83%AC%E3%83%84%E3%82%A3%E3%82%A2%E3%83%BB%E3%83%9C%E3%83%AB%E3%82%B8%E3%82%A2>

KP 用資料「傭兵隊長」

中世後期から近世にかけての欧州では、頻発する戦争の需要に応え、多くの傭兵が出現した。

一概に傭兵と言っても形態はさまざま、流民や食い詰め者の集まりから、小貴族の次男三男が放浪騎士として徒党を集めた「カンパニー」、中小貴族(シコローリア)自身が自らの軍勢を上位貴族に丸ごと売り込む「コンドッティエーレ」まで、質量ともに千差万別であった。

成功した一握りの者は貴族にさえなれたが、常に死と隣り合わせの傭兵は、雇用主からの報酬が不足すると町や村を略奪することもあった。高額報酬によって雇用主を裏切ることもしばしばあり、シナリオ内で探索者が遭遇する傭兵の中にも、そういった輩がいるかもしれない。

1.7 時代背景補填の為の

シナリオ資料

(※本項の資料を事前に PL に配布すること。)

本シナリオの舞台は、1492 年のイタリア・フィレンツェ市です。当時のイタリアは、今のような統一国家ではなく、コムネと呼ばれる都市国家に分かれていました。一つ一つの大都市に貴族が存在し、彼らが独自の支配を行っていたのです。フィレンツェを支配するのは、メディチ家と呼ばれる商人出身の貴族です。

民衆はその殆どが農民で、都市国家の周囲に広がる畑で働き、税を納めていました。ごくごく一部の裕福な市民は商人となり、人口の僅か数%の貴族と聖職者が彼らを支配していました。街と街は街道で繋がれていましたが、一歩街道を出ると、そこには、盗賊や追剥ぎといった無法者が犠牲者を探して歩き回っています。

善良な市民の殆どはキリスト教を信仰しており、その筆頭であるローマ教皇の導きに従っていました。古代ローマやギリシャの神々は古き迷信とされていましたが、1430 年前後から、様々な都市国家で、貴族や商人が中心となり、古代の学問や芸術を再評価する動きが見られ始めました。これに刺激され、イタリアやフランドルで芸術活動が盛んになります。これが、「ルネサンス(復活)」です⁶。

特にフィレンツェはその中心地であり、古代ローマやギリシャの神々を題材とする絵が盛んに描かれたり、教皇を批判する言論も生まれたり、信心深いキリスト教徒にとっては煙たい場所でした⁷。シナリオ開始時の教皇・インノケンティウス 8 世は、(彼自身、女性関係や聖職売買など腐敗していましたが、)異端審

⁶ それ以前にも、所謂「カロリング・ルネサンス」「12 世紀ルネサンス」の時代に古典文化に光が当たりますが、本シナリオとは直接関係しない為、触れることはしません。

⁷ 知識人の中には、古典期の神々とキリスト教を融合させる考えさえも見られていました(新プラトン主義)。

間に積極的に、フィレンツェの文学者の著作を数多く禁書に指定するなど、ヴァチカンとフィレンツェの間には緊張関係がありました。

さて、年代としてはシナリオの後になりますが、「ルネサンス」以降、それまで絶対とされていたキリスト教の権威が揺らぎ始めるようになります。キリスト教においては、神は人間の上に君臨し、民衆を導く聖職者は絶対の存在でした。一方で、復活を遂げた古代の学問は、人間の平等と自由を認める、極めて現代的なものでした。このような動きは、やがてルターに代表される宗教改革に繋がっていくことになります。

KP 用資料「教皇庁とフィレンツェ」

1478 年には教皇がメディチ家打倒の為に陰謀を支援、1482 年にはフィレンツェと教皇庁の間で戦端が開かれるまでに悪化したこともあった。

1492 年当時の教皇インノケンティウス 8 世は裏表のある人物で、愛人を作り聖職売買を積極的に行うなど堕落していた一方で、異端審問に注力し、レコンキスタを完成させた人物でもあった。

本作では、こうしたインノケンティウス 8 世の人物像から、彼がフィレンツェの異教的性向を懸念し、調査命令を下したものとして物語を構築している。

1.8 キャラクター作成

レギュレーション

(※ルネサンス期に対応するサブリメントが存在しない為、下記レギュレーションを用いることを推奨する。採用は KP の判断で行い、採用する際、本項の資料を事前に PL に配布すること。)

・技能の置換

銃技能は使用せず、弓(初期値 5)、クロスボウ(25)に置き換えます。

それぞれ、次の武器に対応しています。

弓 1d8+1/2DB 攻撃回数 1 装填数 1
クロスボウ 1d8+3 攻撃回数 1/2 回 装填数 1

写真術を写生術に置き換えます。初期値はそのままです。

・技能の廃止

電気修理、コンピュータ、電子工学は使用しません。

・技能の追加

知識技能に、数学(1)、音楽(1)を追加します。

1.9 シナリオ中の記号の

説明

・ : 一つの情報の単位を示します。

[] : 情報を入手する為に使用可能な技能や行動を示します。必ずしも情報の開示はシナリオの記述に縛られる必要はなく、タイミングや必要な技能は KP の裁量に委ねられます。また、正気度ロールもこの記号で示されます。

(※) : シナリオ背景や KP 情報を示します。基本的に PL には非公開です。これらは指示ではなく、参考程度の情報であることを忘れて下さい。

[] : NPC による会話部分や描写例です。読み上げるなどしてお役立て下さい。

2 章・本編

2.0 導入

朝の 10 時、HO1 と HO2 の乗った馬車が、フレンツェ中心の教会、サンタ・マリア・デル・フィオーレの前に到着するところから物語は始まる。HO3・HO4 は彼らを教会内の一室へ迎え入れ、今後の打ち合わせをすることになる。

(※今後の探索が容易となるよう、探索者には下記の街の情報を開示した上で、方針決定の時間を与えと良い。教会内部へ誘導すること、時間制限についての情報を与えること、ルクレツィアを用いてカステッロ邸やアカデミア・プラトニカへの誘導を行うことが容易となる。)

導入後、方針決定の為に集合しようとすると、ルクレツィアとの遭遇イベントが発生する。探索者が各々荷物を置いて集まったところで、ルクレツィアが一行に駆け寄り、街の案内をねだってくる。

「あら、HO3 と HO4 じゃない。それに、知らない人たちも一緒ね。ねえ、何処か面白い場所はないのかしら。私、退屈すぎて死んでしまいそうだね。フレンツェには有名な絵が色々あるでしょ、暇なら連れて行って下さらない？」

「カステッロ邸……だけ？ 貴族のポポラーノさんのお屋敷。あそこにポッティチエリの素敵な絵画が飾られているらしいの。私、あれが見に行きたいなあ。後、アカデミア・プラトニカだけ。あそこも！」

(※カステッロ邸とアカデミアに行かせるための誘導である。必ずしもこれを発生させる必要はない。ルクレツィア

は探索者に相手にされなければ一時的に引くが、KP が探索者の誘導を試みる場合、夜や 2 日目の朝に再度出しても良い。)

この導入シーンで、PL にフレンツェの街の情報を開示すること。街には、以下の探索可能なロケーションが存在する。勿論ここに記された以外に PL から適切な要望があれば、KP はアドリブで処理しても構わない。

・アカデミア・プラトニカ

メディチ家の抱える芸術サロン。サンドロ・ボッティチエリを代表とする巨匠が集まっている。

地下書庫には彼らの著作物が収蔵されており、特に古代の哲学や神話に関する研究が盛んである。

・ヴェッキオ宮殿

フレンツェの支配者、ロレンツォ・デ・メディチが居住する宮殿。ロレンツォはポポラーノ・デ・メディチの従兄に当たる。

・シニョーリア広場

ヴェッキオ宮殿の眼下に広がる、フレンツェの中央広場。市民たちから情報を集めたり、人を探したりしているなら、ここに行くといいだろう。

日中には市が立っているかもしれない。

・サンタ・マリア・デル・フィオーレ教会

フレンツェの最も格式高い教会。探索者たちの活動拠点となる。地下には、教会によって集められた禁書が収蔵される禁書庫がある。

・サン・マルコ修道院

改革派の司祭、ジローラモ・サヴォナローラの拠点とする教会。貧民街に近く、治安はあまり良くはない。

・カステッロ邸

フレンツェの貴族、ポポラーノ・デ・メディチの邸宅。

・ヴェッキオ橋

アルノ川に架かる大きな石造りの橋。橋の下は漁師たちのたまり場となっている。

フィレンツェ概観

